

# I. 事業の状況

## 1 総括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的とし、設立以来半世紀以上にわたって、文部科学省の管下で研究助成等の事業を進めてきました。9年前の平成24年からは公益財団法人に認定されて内閣府の所管となり、学校などへの研究助成、研究成果の刊行、野外教育活動の推進に加えて、医学・医療eラーニングや世界点字作文コンクールなどへ公益事業を拡大してまいりました。

本年度は、数波にわたる新型コロナウイルス感染症流行禍の影響を受けつつも、次の事業を行いました。

◎ 小・中学校や研究団体等への研究助成では、小学校6校、中学校6校、2研究団体、1学会に助成を行いました。

研究内容のテーマを挙げると、「生きる力を育む健康教育」「主体的に“問い”を追加する児童育成」「自分で気づき・考え・行動する子どもを育てる」「生徒主体の健康教育の実践」「SDGsをテーマにした協同学習」「主体的に学びを追求できる生徒の育成」「制作活動を通じた数学的活動の授業デザイン」「主体的に学び続ける力を育む算数学習」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」など生徒の主体性の向上を育てるものを中心に多様でした。

◎ 研究成果は「教育研究情報」誌に掲載して発行、当研究所のホームページにもアップして、成果の普及を図りました。

◎ 野外教育では、自然体験活動の指導者を対象に、教材(アイオレシート)を使い実技指導中心の講習会を開催しました。

「野外教育情報」ニュースレターを発行し、「教育研究情報」と同様に、当研究所のホームページにアップいたしました。

◎ 医学・医療分野では、eラーニングを推進するMEDI@ (メディアット)システムのもと、セミナー等の講演・講義の収録・配信、eラーニング利用への支援(日本外科学会、日本リハビリテーション医学教育推進機構、日本東洋医学会)、資格認定のためのeラーニング利用(日本癌治療学会、日本リハビリテーション医学会)、専門医養成のための支援(日本専門医機構、日本泌尿器科学会)などを行いました。

◎ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」は、第19回目を実施し、国内・海外部門でそれぞれの優秀作品を表彰しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

今後とも公益事業の着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

## 2 助成等事業概要

### A. 研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校に対して、公募のうえ助成を行った。

#### 《小学校》

- 特別活動（岩手県）遠野市立達曽部小学校（早野 聡 校長）  
〒028-0305 岩手県遠野市宮守町達曽部 15-10

研究主題 「生きる力を育む健康教育の在り方の考察」

— 規則正しい生活習慣確立のための電子メディアコントロール指導 —

\* 電子メディアコントロール力を養い、規則正しい生活習慣を確立するための効果的な健康教育を実践。連休・長期休業中の電子メディアコントロールチャレンジ、保護者・高学年児童を対象とした当該関連講演会の開催、ノーメディアサマーキャンプ体験、外遊びの推進で体力アップ等を実践した。

- 社会科教育（東京都）中央区立日本橋小学校（児玉大祐 校長）  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-17

研究主題 「児童が主体的に“問い”を追究する社会科授業づくり」

\* 地域教材を開発し、調べたいと思う「問い」を工夫することで、児童が主体的に課題を追究したり解決したりするための社会科授業はどうあるべきか。社会科における問題解決的な学習を展開するための研究に取り組む。児童の「なぜ?」「どうして?」を大切に授業を追究するために、身近な地域教材を開発すること、また、学習の導入場面を工夫し、「調べてみたい」と思う「問い」を児童にもたせることを主な研究内容に位置付け実践した。

- 情報・図書教育（神奈川県）桐蔭学園小学校（森 朋子 校長）  
〒225-8502 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

研究主題 「ラーニングスペースづくり」の研究

\* ラーニングスペースは、小学校の限られた空間利用を工夫し、ラーニングコモンズ(生徒の学習支援のための場所や施設)の機能や授業、学年集会やアフタースクールに利用できる教育的効果を高めるマルチスペースを意味する。

同時に、図書館機能に加えて、メディアセンターとしてITC機器を活用した調べ学習などに取り組むことや、グループ活動が活性化されるスペースとして生活、

授業などに臨機応変に対応可能な場をデザインし、活用すること で児童主体の学びを実現できた。

- 授業研究 (和歌山県) 和歌山市立 加太小学校 (藪本みゆき 校長)  
〒640-0103 和歌山県和歌山市加太 1210

研究主題 「小規模特認校に向けた小学校の魅力ある教育課程の創造」

\* カリキュラムマネジメントを行い、中・大規模校との差別化を図り、魅力あるカリキュラムの在り方を探究するために、校内外の資源や本校の強みや弱みを整理し、研究の目的等を共有、カリキュラムデザインの研修、年間指導計画の作成、カリキュラムの見直しと更新を年間指導計画に基づき実践した。

- 健康教育 (福岡県) 古賀市立 小野小学校 (木部里美 校長)  
〒811-3123 福岡県古賀市米多比 1390-2

研究主題 「気づき・考え・行動する子どもを育てる“小野っ子健康プロジェクト“」

\* コロナ禍において、一人ひとりが生活を振り返り、睡眠・食事・運動等について学びながら、健康についての意識の向上を図った。また、生活習慣の改善に向け、家庭へ健康情報の発信をすることで、家庭を巻き込んで保護者の健康意識をも高めることができた。

- 健康教育 (長崎県) 長崎市立山里小学校 (山崎直人 校長)  
〒852-8114 長崎県長崎市橋口町 20-56

研究主題 「生活習慣を見直して、心身ともに本物の健康を目指そう」

— 「山里小げんきアップカード」の取組を通して —

\* 子どもたちの生活習慣を見直し、心身ともに本物の健康を身に付けさせるため、PTAと共同で実施している「げんきアップカード」の内容を検討してさらに充実させ、メディア利用や健康づくりの習慣、睡眠の大切さを中心に改善の取組を行った。

## 《中学校》

- 総合的な学習 (山形県) 酒田市立東部中学校 (舟山邦彦 校長)  
〒999-6711 山形県酒田市飛鳥字堂之後 30

研究主題 「地域を創る」

— 持続可能東部学区のために私たちができること —

\* 子どもたちは自分たちが住んでいる地域の良さや魅力を知らないまま成長

し、地域を離れてしまう。それが少子高齢化・人口減少といった地域の課題に繋がっている。この課題解決の一助として、地域を知る活動、地域で働く活動(里山と竹林の整備、農業学習などの現場体験)、地域を考える活動を通して、自分たちの住む地域を知ることによって活性化を考えることができた。

○ 特別活動 (東京都) 杉並区立 井荻中学校 (長谷川学 校長)

〒167-0035 東京都杉並区今川 2-13-24

研究主題 「生徒主体の健康教育の実践」

— 健康ミニリーダーの育成と行動変容の関連について —

\* これまで「感染症予防対策」を一つの柱として様々な取組を行った結果、保健給食委員会は、雑務から脱却、生徒の主体性・自主性が育まれつつある。本年は、1年間の活動テーマを「メディアと健康」とし、保険給食委員会を中心に健康に関する活動を行った。生徒の活動と並行して、教職員や保護者、学校運営委員など大人への問題提起と啓発活動を行った。

○ 特別活動 (東京都) 十文字中学・高等学校 (橋本ヒロ子 校長)

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-10-33

研究主題 「オンラインによる PBL 型の学習の実践」

— SDGsをテーマにした協同学習 —

\* コロナウイルスの影響により、学校の授業でディベートや発表などの協同学習がほとんど実施できていないという現状がある。これらをインターネットを利用することで解決し、学校に来ることができない生徒もディベートや発表などに参加できるようにすることができた。

○ 教科・領域 (滋賀県) 守山市立 守山南中学校 (辻本長一 校長)

〒523-0044 滋賀県守山市古高町 357

研究主題 「主体的に学びを追求できる生徒の育成を目指して」

— 教科横断型指導における表現活動を通して —

\* 守山市では昨年度に一人一台の情報端末が整備され、すべての教科指導で支援ツールとしての活用が進められている。本校では「ICTを活用した授業づくり」や「ペア学習・資格支援を核とした授業づくり」の実践があり、本年度は、①思考の可視化や意見の伝達や交流時協同学習などの表現活動での共有ツールとしての活用方法の構築、②可動式投影装置の開発について取り組みを行った。

- 数学教育（大阪府）関西学院千里国際中等部・高等部（井藤真由美 校長）  
〒562-0032 大阪府箕面市小野原西 4-4-16

研究主題 「制作活動を通じた数学的活動の授業デザイン」

— 関数の焦点に着目して —

\* 2021 年度から新学習指導要領が始まり、基本的な考え方の一つとして「体験活動の重視」が挙げられている。また、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。本校で開講している「数学ヒストリーツアー」ではこれらの学びを重視しており、一定の効果が認められる。中学数学の各単元に織り込むことで、学習意欲と深い理解を目指し、その例として関数の学習に着目して授業デザインを行うことができた。

- 郷土学習（高知県）高知市立義務教育学校土佐山学舎（竹崎優子 校長）  
〒781-3221 高知県高知市土佐山桑尾 13

研究主題 「特色ある学校づくり」

— 土佐山学舎の「小さな学校の大きな挑戦」—

\* 本校は高知市北部にある自然豊かな中山間地域にある。1・2年生「生活科の地域の自然や人に関わる学習」、3～9年生の「総合的な学習の時間」を「土佐山学」の名称で呼び、生まれ育った土佐山地域の良さを、意図的に発見し発信することを学習のポイントとしている。本年度は土佐山学舎の研究とともに、英語教育においては英語ツアー等の実践を行うことができた。

計 2,400,000円

## B. 教育現場への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、公募のうえ助成を行った。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、道徳教育、情報教育、障害者教育、家庭教育、国際理解教育、環境教育等の分野としている。

### 《数学教育》 広島県中学校数学教育実践研修会

（代表者：天野秀樹／広島大学附属東雲中学校教諭）

〒734-0022 広島県広島市南区東雲三丁目 1-33

研究主題 「主体的に学習に取り組む態度を伸ばす教材の開発」

\* 本会は、広島県内の中学校数学科教員の実践力向上を目的としている。深い学びへ連結していくための教材のつくり方や選び方を、当研修会を通して、広島県内の中学校数学科の現職教員が協働し模索して授業を作り上げ、実践力の向上が実現できた。

### 《算数教育》 岸和田市小学校教育研究会算数部

(代表者:木村憲太郎/岸和田市立大芝小学校教諭)

〒596-0001 大阪府岸和田市磯上町2丁目4-1

研究主題 「主体的に学び続ける力を育む算数学習」

\* 岸和田市小学校教育研究会は市内の24ある小学校に勤務する管理職・教員で構成されている。2020年度の会員数は約500名で、そのうち約60名が算数部に所属している。子どもたちが目まぐるしい速さで変化する社会に対応するには、自分の良さを生かし、他者と協働しながら学ぶことが重要であると考え。そこで算数の授業では子どもたちに主体的に学び続ける力を育成することを目的に、学ぶ意欲を高め、友だちと学びを共有することを軸にした実践を行うことができた。

### 《家庭教育》 日本家庭教育学会 (会長:中田雅敏/八洲学園大学教授)

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5

研究主題 「家庭教育に関する理論的・実践的研究」

\* 1986年設立の学術研究団体。会員数は500人ほど。家庭教育のあり方を検討するため、家庭ないし家族とは何か、親子・兄弟等の人間関係はいかにあるべきか、子どもの心身の全人的発達をいかに促すか、学校教育との関連はいかにあるべきか等、実生活における体験・反省を踏まえて研究を行った。人文・社会諸科学はじめ医学・体育学・家政学等の諸学問による学際的研究を進めるとともに、学校教育の実践的研究等とも密接な連繫を図りつつ推進した。

計 500,000円

## C. 野外教育活動の推進

野外教育(とくに自然体験活動)の充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを発行し、当研究所のホームページにアップし、知見の普及を図った。

### ○ 野外教育の指導者講習会

パッケージド・プログラム「IORE SHEET(アイオレシート)」を教材とし、野外教育(とくに自然体験活動)に関する知識、指導法、安全対策等を伝え、指導者の養成を図

った。対象は、学校教育関係者、社会教育関係者、大学等の学生、民間の青少年育成に携わる指導者など。メイン講習会は次の1回を開催した。

10月30日(土) - 10月31日(日) 1泊2日

開催場所は、厚木七沢自然ふれあいセンターにて実施した。

そのほか、奈良県(国立曽爾少年自然の家11月中旬)で行なわれた。

#### ○ 機関誌「野外教育情報」ニュースレターの刊行、配布

野外教育に関する実践事例や各種の情報、特集テーマの下での記事を掲載したニュースレター形式の機関誌「野外教育情報」を発行し、当研究所のホームページにアップしている。現在は、第14号まで発行している。

尚、野外教育活動については、令和4年度より諸般の事情によりしばらくは休止としており、「野外教育情報」も現在作成中の第15号以後は休刊といたします。

計 1,037,722円

#### D. 研究報告誌の刊行・配布

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料として当研究所のホームページにアップして、成果の普及を図る。

#### ○ 「教育研究情報」の刊行、配布

令和4年1月に発行。前年度に研究助成を行った、研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載して、当研究所のホームページにアップしている。現在は第53号まで発行している。

計 485,760円

#### E. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15(2003)年に創設、その後世界規模(現在は世界4地域128か国)に発展した。

国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。この第19回世界点字作文コンクールを、共同開催の形で支援した。

計 4,000,000円

## F. 医学・医療教育及び教育技術への助成・研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修(eラーニング)を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MEDI@(メディアット)システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して助成や支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開を行った。

### ○ 医学会のeラーニング利用への支援

教育・研修等のインターネットでの利用を計画している一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構のeラーニングシステムの構築など、その利用推進を支援した。

### ○ 医学会の専門医単位更新のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本専門医機構や一般社団法人日本外科学会、一般社団法人日本泌尿器科学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会などの専門医資格更新の単位取得等を目的としたeラーニングシステムの構築や運用・管理、コンテンツの制作、配信サービスなどを支援した。

計 20,343,772円

以上



## II. 処務の概要

### 1. 役員に関する事項

#### 【理事】

(令和4年3月31日現在)

	氏名	区分	就任年月日	現職等	備考
理事長	大舘 直人	常勤	令和2・6・24	オンキヨー(株) 名誉会長	平成22・12・9
理事	赤羽 正己	非常勤	〃	(株)プロストホールディングス 代表取締役	〃 18・4・1
〃	大舘 宗徳	非常勤	〃	オンキヨー(株) 代表取締役社長	〃 22・12・9
〃	加藤 治文	非常勤	〃	東京医科大学 名誉教授	〃 30・5・31
〃	竹田 幸男	非常勤	〃	(株)文理 元専務取締役	〃 18・4・1
〃	椿 勲	非常勤	〃	椿勲公認会計士事務所 代表 常任理事	〃 22・12・9
〃	土井 浩信	非常勤	〃	淑徳大学 名誉教授	〃 12・4・1
〃	福岡 政行	非常勤	〃	白鷗大学 名誉教授	〃 28・4・1
〃	森 勇	常勤	〃	(株)上総モナークカントリークラブ 前代表取締役 常任理事 事務局長	〃 24・5・28

(備考欄：初任年月日)

○令和3年度は理事の任期は継続中にて変更はありません。

【 監 事 】

(令和4年3月31日現在)

監 事	大平 健司	非常勤	令和2・6・24	大平健司公認会計士事務所代表	平成23・4・1
〃	近田 直裕	非常勤	〃	近田公認会計士事務所 代表	〃

(備考欄：初任年月日)

○\*令和3年度は監事の任期は継続中にて変更はありません。

【 評 議 員 】

(令和4年3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
評議員	大船 時久	非常勤	令和2・6・24	オンキヨー(株) 元会長	平成22・12・9
〃	岡田 八郎	非常勤	〃	上総エーカントリークラブ 元代表取締役	〃 22・12・9
〃	佐藤 貢悦	非常勤	〃	筑波大学 教授	〃 12・4・1
〃	西村 正宏	非常勤	〃	(株) キバンホールディングス 代表取締役	〃 28・5・26
〃	畑 史 郎	非常勤	〃	(株)文理 前代表取締役会長	〃 28・5・26
〃	北條 良彦	非常勤	〃	オンキヨー(株) 元特命担当	〃 23・4・1
〃	丸山 敏秋	非常勤	〃	一般社団法人倫理研究所理事長	〃 15・5・23

(備考欄：初任年月日)

○ 令和3年度は評議員の任期は継続中にて変更はありません。

## 2. 役員会に関する事項

### (1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
3年5月11日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長が決議事項の提案書を発し、理事全員が同意書、監事全員が異議がないことの確認書を提出。</p> <p>1) 令和2年度事業報告及び収支決済書承認の件 2) 第13回(通算113回)評議員会招集の件 定款第17条にもとずき、定時評議委員会を5月26日(水)に開催(正面決議の形で)する招集決議を承認。 決議事項は、令和2年度の財務諸表(計算書類)の承認の件 3) この決議があった日を、5月11日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 ” ”</p>
4年3月28日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長が決議事項の提案書を発し、理事全員が同意書、監事全員が異議がないことの確認書を提出。</p> <p>1) 令和4年度事業計画及び収支計画の承認の件 2) 令和3年度(今年度)事業計画の資金調達計画の変更、令和4年度にeーラーニングシステムのmedi@を一般財団法人日本外科学会仕様にアップグレードするため、その費用の一部を理事長の大拙直人氏より借入。金額は1,992,000円で無利息。一般財団法人日本外科学会からの入金時に返済する。 3) この決議があった日を、3月28日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 ” ”</p>

### (2) 評議員会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
3年5月26日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長大拙直人が決議事項の提案を行い、評議員全員から書面による同意の意思表示を得た。</p> <p>1) 令和2年度財務諸表(計算書類等)の承認の件 2) この決議があった日を、5月26日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 ”</p>

## 3. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	申込金額	領収金額
助成等事業推進	<p>オーエス・ホールディング株式会社 (代表取締役 大拙直人)</p>	11,500,000	11,500,000
	合 計	11,500,000	11,500,000

## 令和3年度事業報告 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」  
第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

令和4年4月28日

公益財団法人 日本教育科学研究所